

【2024 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 作業療法学コース/作業療学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
臨床実習Ⅱ (地域実習)	OSP32-002	必修	1	3	後期
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
浅野 克俊 他	C313	k.asano		木曜日 14:40~16:20	
授業の目的・概要	臨床実習は、作業療法の現場に学生が出向いて、実際に作業療法が実施されている場面の見学や学内で学習した態度・知識・技術を、実践を通して学習する過程である。この実習では、訪問リハビリテーション又は通所リハビリテーションの施設に出向き、見学を主体とした実習を行う。 実習を通して地域包括ケアにおける作業療法士の役割や対象者を把握し、専門職や社会人としてのマナーに基づいた行動を修得するとともに、地域における保健・医療・福祉・介護の分野間および多職種間の連携について見識を深めることを目的とする。また、生活行為向上マネジメント (以下、MTDLP) を使用し、地域作業療法の臨床思考過程を学ぶ。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	臨床実習は、病気や障害を持つ人が医療施設・保健施設・福祉施設あるいは自宅などで、作業療法を受けている現場で実施されるものであり、この人々の厚意と協力を得て臨床実習が成り立っていることを十分自覚し、感謝と敬意の気持ちをもって誠実に実習に取り組む姿勢が必須である。				
教科書	臨床実習Ⅱ (地域実習) の手引き				
参考書	特になし				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	社会人としてふさわしい態度や行動をとることができる。			HSU(1) ~ (4)、OT(1)	
②	地域分野で働く作業療法士の業務や役割を理解できる。			OT(1) ~ (3)	
③	健康生活に関する地域の特性を個人・環境因子も含めて多面的に捉えることができる。			OT(1) ~ (3)	
④	地域リハに関する諸制度、地域連携、社会資源などを理解する。			OT(1) ~ (3)	
⑤	作業療法士業務の初歩的な補助ができる。			OT(1) ~ (3)	
⑥					
授 業 計 画					
この実習は3つのプロセスで行う。					
①実習前オリエンテーション (2時間) 実習の手引きを使用し、臨地実習前に必要な事項をまとめ、心構えや準備を行う。					
②臨地実習 (40時間) . 3~4名で1グループとし、計5日間学生が実習施設へ出向き見学を中心とした実習を行う。学生は地域作業療法の役割や対象者について学び、また、対象者との関係性の構築と作業療法評価に必要な情報を得るためにコミュニケーションとインタビューを行う。この実習は教員が同行し、実習施設の指導者と共に学習過程を計画、評価していく。					
③実習後課題 (3時間) 臨地実習終了後には対象者1名について得られた情報をもとにMTDLPでまとめ、発表する。					

【2024 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 作業療法学コース/作業療法学科】

学習課題・学習時間

臨床実習Ⅱ（地域実習）では社会的スキルと臨床的スキルの2つを修得する。

①社会的スキル

ルールやマナーなど社会人としての基盤である。対象者やスタッフとのコミュニケーションなど、対人能力も含む。「主体的に行動する」「TPO に応じた言葉遣いや配慮をする」などは態度にあたる。臨床実習Ⅱ（地域実習）では一般的な社会的スキルが求められ、定められたルールのもと、対象者やスタッフとの適切な関係性が構築できるよう学習していく

②臨床的スキル

運動スキルと認知スキルに分けられる。運動スキルの修得はスキル修得者（臨床実習では実習指導者）を観察し、模倣・試行を繰り返して修得されるもので、臨床実習ではこの過程をチェックリストで確認する。認知スキルとは「臨床の知」と言われるような、知識を臨床で応用し、状況に応じて行動・判断することで、経験を通じてしか学ぶことができない。実習指導者の解説を受けながら伸ばしていく必要がある。臨床実習Ⅱ（地域実習）では地域在住高齢者の生活障害を、機能障害や活動・参加制約、背景因子から構造的に検討できるように知識や技術を修得していく。そのために基礎的な面接技術を臨床の場で体験する。

学生はスキル修得のために、以下の3点を実習毎に繰り返すことが必要になる。

- ①日々の目標を立て、達成できるように主体的に行動する。
- ②実習記録を書き、その日の経験を振り返る。
- ③対象者の安心・安全に配慮し、対象者の心情や回復に関心を持つ。

学習者である学生は、学習すべき各技術項目の実施を任せてもらえるよう、主体的に取り組まなければならない。

不明瞭な点は実習指導者に確認し、理解を深めるための自己学習が必要である。

必要時間（単位：時間）：1 単位：45 時間

達成度評価

総合評価割合（%）		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	50	0	10	40	100
総合 力 指 標	知識・技術力	0	10	0	0	5	15
	思考・推論・創造する力	0	10	0	5	5	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	5	5
	発表・表現伝達する力	0	10	0	0	5	15
	コミュニケーション力	0	5	0	0	5	10
	取組みの姿勢・意欲	0	5	0	0	10	15
	問題を発見・解決する力	0	10	0	5	5	20

評価のポイント

評価方法	行動目標		評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
	①	②		
試験	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
レポート	①		施設での実習終了後、実習中に経験した1事例について評価の統合と解釈、目標設定までをまとめる。この時の行動と態度も評価対象とする（50%）	教員による口頭でのフィードバックを行う。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤			
	⑥			
成果発表	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
ポートフォリオ	①	✓	実習中の自己学習ノート、提出物の内容（10%）	教員による口頭でのフィードバックを行う。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
	⑥			

【2024 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 作業療法学コース/作業療法学科】

その他	①	✓	一般課題の達成度（実習状況評価表）（20%） 専門課題の達成度（実習状況評価表）（20%）	実習指導者、および教員による口頭でのフィードバックを行う。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
	⑥			
備 考				
他 担 当 教 員	志茂 聡、小沢 健一、榎田 哲弥、岡 猛、小川 麻里子、渡辺 俊太郎、向山 秀			
教員の実務経験	各教員は作業療法士として様々な臨床経験を有する。			
実践的授業の内容	臨床実習のため、実体験を通して、セラピストとして修得すべきスキルと態度、倫理観を育成していく。			
そ の 他	大学、実習施設が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。 問題がある場合は実習の参加を認めない。			